千秀だより

横浜市立千秀小学校

２月号

平成３１年（２０１９）２月1日

冬の装いの中、見つけた春の息吹

校長　市　川　幸　男

１年で最も寒い時期である小寒から大寒にかけて、学校は、まさにインフルエンザ禍といってもよいほどの流行に見舞われました。当初、クラス一人、二入というところでしたが、瞬く間に全校に流行し、多くの学年・学級閉鎖をせざるを得ない状況となりました。閉鎖に伴って保護者の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、いただきましたご協力のおかげで、インフルエンザの流行もその一時にとどまり、収束してまいりました。今後、手洗い・うがいの励行はもちろんのこと、子どもたちの学校生活を見直し、今回のような感染症の拡大がないように一層取り組みを強化してまいりたいと存じます。

さて早いもので、もう１月が終わり２月となり、立春の声を聞くこととなりました。春の到来といえば、私は毎年プールの裏にある１本の紅梅の木を思い出します。プールの機械室と大きな桜の木に挟まれ、本当に目立たず、ひっそりとたたずんでいるのですが、私はこの紅梅の木が、この時期とても気になっています。というのも、この梅の木は、学校中の樹木の中で真っ先に花をつけ、春の訪れを予感させてくれるからです。今年も、１月中旬に見に行ってみると、枝に今にもほころびそうな蕾が並んでいました。その後１週間を経て再度見に行きますと、寒風の中、可憐な花を開き、冬の色合いの少ない景色の中、そこだけは華やいだ空気に包まれているようでもありました。よく「梅は百花の魁」と言われます。旧暦で、年の始まりの節目とされる【立春：２月上旬】に、開花始めを迎える梅の花に対する例えですが、ここで使われる「魁（さきがけ)」という文字には、単に先頭に立って走るというだけでなく、後に続くや桜や木蓮、杏やその他の春のあでやかな花々に進むべき道を示すという意味合いがあるそうです。北風が吹き抜け、時には雪の舞う中、凛とした梅の姿を見ていると、寒いからといって、背中を丸め、怠惰な一日を過ごしてはいけないよ。北風に向かい立ち、胸を張り、まっすぐに進んでいきなさいと言われたような気がしました。今年度も残り２か月。今すべきこと、今しなくてはならないこと、しっかりと見つめ直し、残された一日一日を価値あるものとしていきたいと存じます。

１２月に学校評価にかかわっての保護者アンケートを実施させていただきました。昨年度までの紙面によるアンケートから、ＷＥＢアンケートにと形式をかえさせていただきましたが、多くのご回答をいただき、心より感謝申し上げます。いただきましたアンケートについては、集約し、今後の学校経営の在り方としての基礎データとして活用させていただきますが、その結果や、いただいたご意見についての学校の考えなどをまとめ、３月中には学校ＨＰで公表したいと計画しております。その際は、改めてご案内申し上げますので、ご確認いただければ幸いに存じます。